

白内障、飛蚊症について

Q 家族が病院で白内障と言われましたが、どんなタイミングで手術をしたらいいのでしょうか。また、私は飛蚊症と言われました。治療は必要ないと聞きましたが、現状より良くする目薬はありますか。日常生活で気を付けることは何でしょうか。

A 白内障は目の中にある水晶体の透明性が低下して、視力障害の原因となる疾患です。大部分は水晶体の老化による「加齢性白内障」ですが、「外傷性白内障」「ステロイド白内障」「糖尿病白内障」「アトピー皮膚炎白内障」などは、若い年代の人にも発症することがあります。一般的に60代では約半数の人に白内障が見られ、加齢とともに有病率はさらに増えていきます。

症状としては、初期は「日中の光がまぶしく感じる」「逆光で非常に見づらい」「夜のヘッドライトがまぶしい」などですが、進行するにつれて「目がかすむ」「暗くなると極

健康110番

国際医療福祉大学病院です



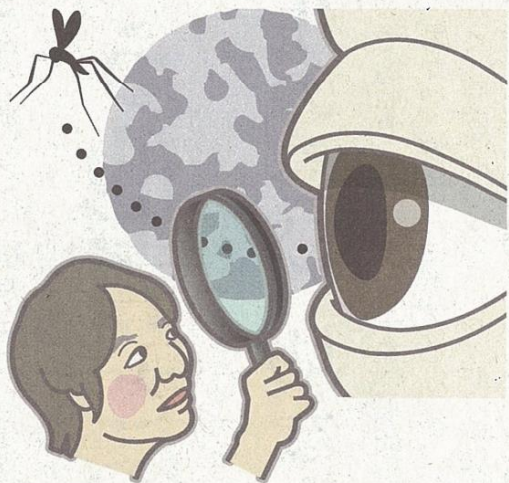
水流忠彦医師

大部分は加齢が原因

端に見づらくなる「交通標識が見えづらい」などの症状が出てきます。手術のタイミングですが、白内障以外に特に目の疾患がない場合、基本的にはご本人がかなり気になるようであれば手術を受けるということになりま

度、左右眼で異なる場合や、白内障以外に目の病気がある場合には、主治医と十分に相談して決める必要があります。

網膜に影を落とすことが原因とされています。症状は片目だけのことも、両目になることもあります。飛蚊症の大部分は近視や目の加齢現象が原因とされており、通常は治療の必要はなく、治療法も特



イラスト/ 仲田育代 SHIMOTSUKE GRAPHICS

とがある、などが特徴的です。

目の中にある「硝子体」と呼ばれる卵の白身のような透明な組織の一部にムラができ、光が目の中を通過する時に、その部分が

（眼科 水流忠彦）
（第2、4、5木曜日掲載）

